

富士見町有害鳥獣対策の現状

町では、皆様からの有害鳥獣被害報告を元に、被害額等の算出を行いました。その結果、今まで最も被害を出していたニホンジカによる農作物被害を、ニホンザルによる農作物被害が上回る結果となりました。

現在、富士見町にはニホンザルの大きな群れが3つ確認されており、それぞれ活動圏から【瀬沢群】【蔦木群】【花場群】と呼んでいます。それぞれの群れの被害規模は表のとおりです。

	瀬沢群	蔦木群	花場群	ハナレザル	合計
被害件数	7件	19件	2件	1件	29件
被害額	213,865円	1,216,289円	49,119円	9,830円	1,489,103円
被害面積	16.6a	62.5a	2.0a	1.0a	82.1a

ニホンザルは、群れのリーダーを捕獲することで群れが分裂する恐れがあります。ニホンザル被害を減らすためには、柵などでの防除や追払いも含めた《選択》捕獲が必要です。

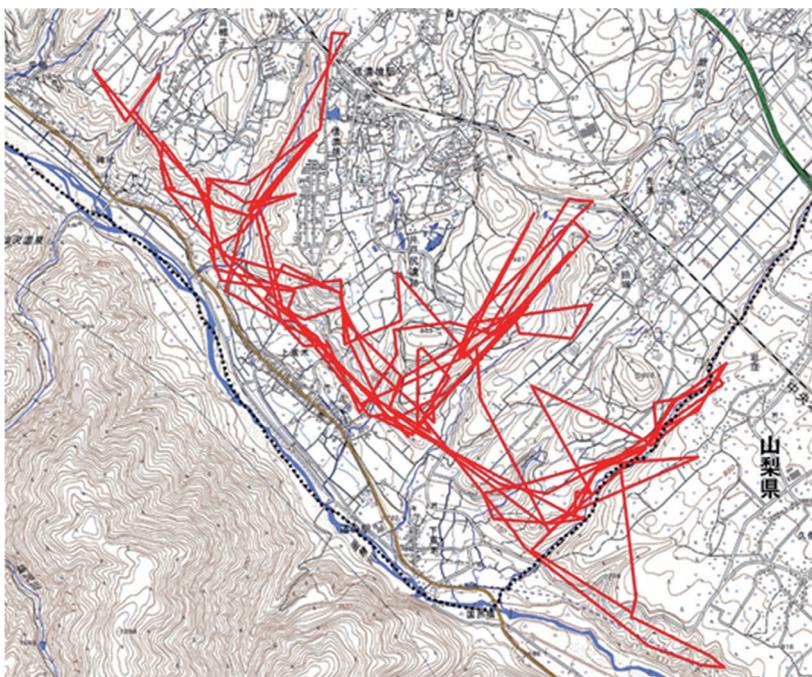
今後、群れの動向を知るための調査をした後、効率的な捕獲を行う予定です。



発信機によるニホンザル追跡調査を行っています

11月末、上蔦木で捕獲した【蔦木群】のリーダーと思われる個体にGPS発信機を装着しました。発信機によるデータから、群れがどのように集落に依存しているかが分かります。

蔦木群の場合は蔦木から神代、信濃境、田端と移動していたこと、また、山梨県北杜市の教来石方面とも行き来していることが分かりました。



これをもとに、先手を打つように防除や追払いに役立てるほか、群れサイズを抑制するための捕獲にもつなげていきます。また、今後、分布拡大が見込まれる【瀬沢群】（瀬沢、立場川沿いに分布）にも発信機を装着し、個体数調整にも役立てていきます。

捕獲の際には、地域の方々の目撃情報や一時的なわな設置場所提供にご協力お願いいたします。

← 蔦木群の動き(発信機装着後の1週間)

ニホンザル捕獲に対する対策



▲移動式中型囲いわな

ニホンザル捕獲の対策として、本年度は今までの小型わなでの捕獲に加え、移動式の中型囲いわなでの捕獲を開始しました。それにより、発信機装着のための個体選別ができるほか、複数の個体を一度に捕獲することができるようになりました。

囲いわなは現在上蔦木に設置してあり、設置2か月で8頭捕獲するなど、群れのサイズ抑制に大きな成果を上げています。



モデル集落における取り組み事例

ニホンザル対策を実践するため、上蔦木集落においてモデル集落事業を実施しました。モデル集落事業では、被害状況を整理し対策に取り組む集落環境診断、電気柵を使ったモデル圃場の設置、追払い講習会を開催しました。



▲電気柵設置の様子

まず、電気柵の基本的な手法を学べる機会として、メーカーや専門家が現地指導する電気柵の設置講習会を開催し、毎年ニホンザルの被害に遭うトウモロコシ畑をモデル圃場とし、そこに電気柵を参加者全員で設置しました。

その結果、その圃場でのニホンザル被害はゼロとなり、柵の高さや構造も功を奏してハクビシン被害もなくなりました。しっかり基本に沿って専門家の指示を仰ぎながら対策したことで、被害が抑制できる事例となりました。

その他、集落住民が協力して安全かつ正確に追払いができるよう、花火を使った追払い講習会を開催しました。

どんなにニホンザルを追跡し捕獲しても、被害が起りやすい環境があれば数年で元の状態に戻ってしまいます。獣害対策は正しい手順と発生背景を踏まえた地道な対策が、被害を減らす一番の近道です。

今回のモデル集落では住民の皆様のご協力のもと、大きな成果を得ることができました。来年度のモデル集落を募集しておりますので、希望集落は農林保全係までご連絡ください。



▲追払い講習会の様子

問 産業課 農林保全係 ☎62-9222